

学校保健

(題字は元北海道学校保健会会長 吉田 信)

発行

公益財団法人北海道学校保健会
札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館5F

☎(011) 221-5240



年頭にあたって

北海道学校保健会 会長

北海道医師会 会長

長瀬 清

新年あけましておめでとうございます。初春を迎えるにあたって、ひと言ご挨拶申し上げます。

日頃より、学校保健・学校安全にご尽力をいただいている皆様方に、心より敬意と感謝を申し上げます。昨年(10月27(木)・28日(金)の両日、札幌コンベンションセンターにおいて、平成28年度全国学校保健・安全研究大会が開催され、全国全道から多くの方々に参加していただきました。

開催にあたっては、北海道教育委員会、札幌市教育委員会をはじめ、多くの学校保健関係者の皆様にお力添えをいただき、すばらしい大会を開催することが出来ました。この場をお借りし、あらためまして感謝申し上げます。また、課題別研究協議会において日頃の実践を基に研究発表を行って頂いた皆様方にもお礼申し上げます。

今大会開催に関わった多くの皆様方のおかげで、開催地としての役割を果たし、今後の学校保健活動・学校安全活動の推進に期待することのできる大会となりました。誠にありがとうございました。

学校保健安全法施行規則の一部が改正され、平成28年度より新しい内容で行われた健康診断ですが、実施にあたっては学校現場や学校医にも多少の混乱もあったようです。特に、運動器検診において

は地域によって様々な対応があり、検診の対象者や要医療対象者の選別に苦慮する場面もあり、運動器検診における学校医用のマニュアルや、運動器検診の目的の明確化、検診基準の提示、チェック項目の確認等、多くの要望が出されております。これらを含めて、次年度の健康診断の円滑な実施のための改善点や共通理解事項、調査結果等の早期の情報提供がなされることにより、ある程度統一して実施できるのではないかと考えております。

今回の改正では、座高検査の廃止に伴い、子供たちの発育を評価する上で、身長・体重の成長曲線を活用することがより重要になってきています。

日本学校保健会発行の「児童生徒等の健康診断マニュアル」(27年度改訂)でも、成長曲線の活用(P.68)を積極的に進めております。マニュアルに添付されている「子供の健康管理プログラム」を使い、成長曲線と肥満曲線に基づく児童生徒の健康管理を行って頂きたいと考えます。

本年も学校・家庭・地域社会の関係者と三師会をはじめ関係機関が英知を結集し、強力な連携のもとに児童生徒の健康・安全の保持・増進に努めて参りますので、ご支援・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

目次

○巻頭言 年頭にあたって

北海道学校保健会会長 北海道医師会会長 長瀬 清 1

○平成28年度全国学校保健・安全研究大会の報告 2

○平成28年度北海道学校保健功労者表彰受賞者、第65回北海道学校保健研究大会のお知らせ

平成28年度学校保健講演会のご案内 4

○第36回北海道学校歯科保健研究大会の報告 5

○保健室シリーズ 子どもの笑顔のために～養護教諭からのアプローチ～

足寄町立大営地小学校 養護教諭 早坂 美乃里 6

平成28年度 全国学校保健・安全研究大会の報告

「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」

—生涯にわたり、自らの心身の健康を育み、安全を確保できる子供の育成—



平成28年度全国学校保健・安全研究大会が10月27日・28日の両日、札幌コンベンションセンターにおいて盛大に開催された。

全国大会が北海道で開催されるのは昭和47年以来44年ぶりのことで、大会には、来賓、役員等、全国各地から学校保健・学校安全関係者約1,100名の参加があった。

大会1日目は、札幌コンベンションセンター大ホールにおいて、開会式に引き続き、平成28年度文部科学大臣表彰の表彰式が行われ、学校保健・学校安全の充実、発展に多大な功績をあげられた248名（学校・団体を含む）の皆様に温かい大きな拍手が送られた。

表彰式に続いて、「子供たちの学校生活を護るための校内連携と他職種連携～発達障害、被虐待経験をもつ子供たちを中心に～」と題して、北海道大学名誉教授であり、こころとそだちのクリニックむすびめ院長の田中康雄氏の講演が行われた。

発達障害や被虐待児症候群を抱えていると思われる児童生徒への対応は、校内連携のみならず、校外の他職種連携が必要不可欠であるとし、複数の機関が、互いの専門性を尊重した上で、同じ目的を持ち、連携を取り合いながら協力し、お互いの機関の専門性の役割を遂行することが大切であることをお話下さった。

今年度は参加者の移動の負担を軽減するため集中開催方式としたため、2日目も同一会場で10課題の研究協議が行われた。各会場ともすばらし

い実践発表に対して、活発な研究協議がなされ、講師からは貴重な講義をいただくなど、充実した協議会となった。

講演の概要

「子供たちの学校生活を護るための校内連携と
他職種連携～発達障害、被虐待経験をもつ
子供たちを中心に～」

こころとそだちのクリニックむすびめ院長
田中 康雄 氏



今日は、医療現場で親御さんや子供たちとの出会いの中で得た事柄や、実際に保育、教育現場に行って、感じたことや、知り得たことを中心にお話します。

私の外来に来る子供たちは、何かしらの発達の躓き、発達の偏りがある、発達障害と呼ばれる子供たちや、虐待を受けて育った子供たち、他にも、不登校、引きこもり、いじめの問題や、校内暴力の課題等で相談に来られる方がいます。かれらは様々な生活の困難さから、精神的な症状を呈します。小さいお子さんですと、身体症状として発熱や、腹痛、頭痛といった体の症状を訴え、高校生前後になりますと、子供のうつ病や、統合失調症を疑わざるを得ないような事態で来られる方がおられます。

一方で教育の役割は、決して医者が行う診断をつけるというようなことではなくて、一人一人の子供の何かしらの躓きや、生きづらさに寄り添って、その範囲で精いっぱい励ましと生きる力を一緒に探し続けることではないかと、学校の先生方とお話し感じるがあります。

この様な大会で精神科医が呼ばれるのも、教育の現場に医療の何かしらの役割が求められたりさ

れていると思いつつ、医療がでしゃばりすぎないことも大切だろうと思います。今日のテーマである連携の部分で私ができることと言えば、医療現場の情報をお伝えすることではないだろうかと思っています。

私が過去に出会った子供たちには、以下のような行動がありました。

- ・ 1年生の女の子は、注意するといきなり怒り出す。
- ・ 1年生の男の子は、授業中ずっとお喋りしている。
- ・ 5年生の男の子は、漢字が覚えられない。
- ・ ある男の子は、落ち着きを欠き、集中がない。突然怒り出し、大声をあげ2階から飛び降りようとする。
- ・ 中学2年生の女の子は、男性の先生に嫌な表情を見せたり、近づいて体を触ろうとする。絶えず人の輪の中ではしゃぐ。身だしなみもだらしがない。

発達障害や、虐待を受けた経験のある子供たちには、この5人の子供たちに似たような行動パターンを見ることができます。

発達障害は、脳の機能の障害とか、でこぼこ、躓きと表現されることがありますが、躓いていない人と、躓いている人、でこぼこでない人と、でこぼこの人といふように、きちっと分かれるかというと、実は分かれにくいのです。発達障害の難しいところは、どこからが脳の機能の障害と認定すべきなのか、どこまでがその子の個性として考えるべきなのか、正直判別がつきません。私が医師として、クリニックで仕事をして相談に乗れるのは、そういう発達の特性を生来的に持っている方が日々の生活をしている中で何かしら困難、何かしら心配な様子があるからです。脳の機能というよりもここに近づきたいわけです。生活を困難にする様々な症状が続いている子どもたちに、時がたてば、そこは発達障害として振りかえっての診断がつくのです。しかし、そのときのころのありようは苦しみであり、孤独であります。そこから生まれる生活の困難な症状さというのは、生活障害と呼べるような事柄なのです。それは、5人の子供たちが示したような、日常の中のやり取りとしてのなかに見られるものです。

一方、虐待を受けた経験のある子たちは、対人関係や生活環境の中で様々な関係性の躓きを見せます。5人の中で、先生との距離感の難しさ、あるいは、お友達の中でのしゃぐときの感情のコントロールの難しさ、かっとなったときの見境の

ないかのような危険な行動、こういったことは関係性の躓きとして認められるわけです。このような生活を困難する、様々な症状も生活障害と呼ぶことができます。生来的な発達の障害、あるいは虐待を受けながら発達していくということは、育ちの中でも何かしらの大変さを抱えながら生きていくことになります。生来的な発達の障害なのか、それとも後天的な発達の障害なのかに分けられ、それを私はいずれも生活の障害と呼ぶようにしています。

『DSM-4-TR』というアメリカの民間の診断基準が、2013年に『DSM-5』というふうに新しい診断基準に変更されました。『DSM-4-TR』は非常に長きに渡って、精神科の診断基準として位置づけられておりましたが、発達障害というグループを一つのグループとして分けていませんでした。今回の改訂でようやく、発達障害グループという一つ大きく括ることになりました。

【神経発達障害群(発達障害)】

- ・ **知的能力障害群** 従来の精神遅滞。IQ（知能指数）の数値が標準値よりも低いということを指標にし、数値の値によって重症度分類をされてきました。『DSM-5』では、知能指数だけで重症度分類をせず、生活障害の有無、生活障害の程度によって、IQと合わせて判定することになりました。
- ・ **コミュニケーション症群** 言葉の遅れが認められる言語取得と使用の障害としての言語症、誤音症、小児期発症流ちょう症、社会的コミュニケーション症
- ・ **自閉症スペクトラム症** これまで、広汎性発達障害という大概念の下位診断として自閉症とアスペルガー症候群と二分されていたものが、自閉症とアスペルガー症候群を包括する名前として統合されました。
- ・ **注意欠乏多動症** いわゆる、ADHD。
『DSM-5』では、7歳から12歳までと発症年齢が引き上がりました。
- ・ **限局性学習症** いわゆる学習障害。知的には遅れはないが、読みや書き、算数の躓きがあります。
- ・ **運動症群** 強調運動症、情動運動症、チック症

【被虐待児症候群】

身体虐待、性的虐待、放置・監護の怠り、心理的な虐待の四つに分類されます。このような虐待を受けると、様々な育ちの躓きが出現します。創

り出されてしまいます。

体の部分では低身長、低体重だけでなく、怪我、時には、命を落とすところまでいくといったようなことが起きてきます。

行動面では、食べ過ぎ、盗み食い、異食、食欲不振、尿便失禁、情動運動、自傷行為、寡黙、嘘をつく、盗みを働く、嫌がらせ、火遊び、だらしない、いじめ等が特徴として現れます。

精神面では、様々な遅れ、落ち着きのなさ、人との距離感のなさ、気力のなさ、体が硬い等が認められます。

大人の顔色を伺うだけでなく、昔で言うところのヒステリー、いわゆる転換解離現象と言う症状も認められます。今は多重人格であったり、頭が真っ白くなってその瞬間何をしていたか覚えていない、あるいはパニックということになります。

虐待を受けたお子さんは、後天的に発達に何かしらの影を落とすというのが、様々な調査、研究で認められています。また、慢性の免疫力が低下するとも言われています。たとえば風邪をひきやすいという部分です。運動、言語、認知の遅れ、不注意、多動、社交性の欠如、あるいは、アタッチメント、愛着の問題等、自閉症スペクトラム症との類似した言動や、ADHDにとっても似たような言動を示します。

虐待を受けると、いわゆる、心の傷、トラウマといったものが起きます。これは、心的外傷ストレス障害（PTSD）と呼ばれます。その外傷体験を何度も繰り返していこうとする再体験とか、そこをなんとか回避しようとして、心を麻痺したかのようにして心を閉ざします。あるいは、気持ちを飛ばすといったようなことが起きます。先の解離症状です。逆に、過覚醒状態として、ものすごく夜もおちおち眠らずに、何分後には起きる。ちょっとした物音にもびくつくというような敏感覚醒の高さ。あるいは、感情調節が不全ということで、ちょっとしたことにもイライラしたり、怒ったりして、訳もなく地団太を踏む。突然、豹変する。否定的な自己概念。対人関係の問題を示します。こうしたPTSDの症状がお子さんの中に出てくるのは、多くは幼少時からの、いわゆる不適切な関わり、暴力的な関わりの中で出てくるのです。そうすると、幼児期は対人関係障害、児童期に、ADHDのような症状に見えたり、青年期になると、薬物物質の乱用になったり、時には、自傷、自殺行為といったものに発展するのです。

（紙面の都合により以下省略。続きは本会ホームページにてご覧下さい。）

平成28年度 北海道学校保健功労者表彰

平成28年度の北海道学校保健功労者表彰につきましては、全道大会が開催されなかったこともあり中止としました。例外として、平成28年度を以て退職される教職員のみを対象に関係機関に推薦を募った結果、以下の4名の方を表彰することとなりました。

勤 務 校	氏 名	年齢	勤続
北海道札幌東高等学校 養護教諭	大村 道子	59	39
函館市立高丘小学校 養護教諭	数又紀和子	59	37
函館市立的場中学校 養護教諭	高田 良子	59	39
函館市立鍛神小学校 栄養教諭	笹木美智代	59	39

第65回 北海道学校保健研究大会のお知らせ

平成29年度に開催する第65回北海道学校保健研究大会は、平成29年10月1日(日)に、新ひだか町で開催することになりました。詳しくは、新年度になってからご案内させていただきます。

平成28年度 学校保健講演会のご案内

- 日時 平成29年3月4日(土)
13:30～15:00
 - 場所 北農健保会館 3F 大会議室
住所：札幌市中央区
北4条西7丁目1-4
TEL：011-261-3270
 - 演題 「生活習慣・学力と睡眠教育」
 - 講師 東京医科大学睡眠学講座准教授
医療法人社団
絹和会睡眠総合ケアクリニック代々木
カウンセラー 駒田 陽子 先生
 - 対象 学校薬剤師、学校保健関係者等
 - 主催 公益財団法人北海道学校保健会
一般社団法人北海道薬剤師会
北海道学校薬剤師会
- ※受講料無料、当日受付で、定員になり次第受付を終了させていただきます
(定員120名程度)

第36回 北海道学校歯科保健研究大会の報告

平成28年10月14日(金)に、北海道歯科医師会と北海道学校保健会が主催する、第36回北海道学校歯科保健研究大会が、北海道歯科医師会館において、学校歯科医・養護教諭・歯科衛生士・学生・学校保健関係者等多数の参加を得て開催した。



北海道歯科医師会藤田一雄会長は挨拶の中で、「美味しく楽しく食事をするには、健康な歯が必要」と強調し、「歯と口は、話したり食べたりするように、自分の体の中では最も身近な存在」と語った。

また、北海道の子どもたちの現状にも触れ、歯科医院や保健所が行う歯科健診や各家庭で実施する歯みがき、甘味食品の制限などの生活習慣・食習慣の改善により、むし歯は減少傾向にあること。しかし、北海道では未だに多くの子どもがむし歯に罹患していて、平成27年度における北海道の12歳児の1人平均むし歯本数は、1.3本と全国平均の0.9本より多く、まだまだ課題が多い現状を訴えた。

そして、子どもたちの歯・口腔の健全な育成のためにはフッ化物応用による取組が必要であり、平成28年3月末現在、フッ化物洗口は全道179市町村中、163市町村で実施され、約9割を満たしているものの、小学校での実施は141市町村512校で全道の5割に満たない数にとどまっているとした。その上で、平成29年度までに全小学校での実施を目指し、北海道・北海道教育委員会・北海道歯科医師会が取り組んでいることに触れ、「子供たちの未来のために、北海道歯科医師会はフッ化物普及・推進に努めているので、皆様のご協力をお願い申し上げます。」と、挨拶を結んだ。

続いて、平成28年度北海道歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール受賞作品の表彰を

行った。全道186校から寄せられた6,964点の作品の中で二次審査に残った156点から2名に北海道知事賞として、表彰状と記念品を授与した。

◆北海道知事賞

小樽市立幸小学校3年
札幌市立太平南小学校6年

小山内 大 吉
渡 邊 充 咲



小山内大吉さん



渡邊充咲さん

他の受賞者は次の通りです。

◆北海道教育長賞

帯広市立明和小学校1年
白糠町立庶路小学校3年
北広島市立北の台小学校4年
旭川市立神居東小学校6年

平 岡 怜 大
高 野 幸 菜
山 下 凛
菅 沼 明 莉

◆HBC賞

稚内市立稚内中央小学校3年
釧路市立愛国小学校2年
北広島市立西の里小学校5年
北広島市立北の台小学校4年

北 川 桜 華
佐 藤 湖 花
川 口 遼 也
佐々木 花 奈

◆北海道新聞社賞

稚内市立潮見が丘小学校3年
音更町立鈴蘭小学校2年
湧別町立富美小学校5年
旭川市立春光小学校4年

小山田 蒼
行 木 仁 愛
高 谷 日 夏
笠 原 咲

◆北海道歯科医師会長賞

旭川市立台場小学校1年
えりも町立東洋小学校3年
札幌市立明園小学校4年
稚内市立潮見が丘小学校5年

松 田 拓 真
神 田 玲 美
森 美 貴
籠 戸 ことみ

引き続き、北海道学校歯科保健優良校の表彰式を行った。優秀賞に輝いたのは、旭川市立神居東小学校、札幌市立定山溪小学校、登別市立登別小学校の3校。HBC賞は、苫小牧市立若草小学校、札幌市立定山溪中学校にそれぞれ贈られ、表彰された。

保健室シリーズ

子どもの笑顔のために ～養護教諭からのアプローチ～

足寄町立大誉地小学校

養護教諭 早坂 美乃里

1. はじめに

本校は「日本一寒い陸別町」に程近い地にあり、陸別町の最低気温を上回る日もある「しばれる」という言葉がぴったりの場所にあります。

全校16名の極小規模校で、1・2年、3・4年、5・6年と特別支援学級2学級の5学級を有しています。

保護者は酪農業が中心で、全校行事などにも積極的に参加してくれます。

私は本校7年目になりますが、本校が初任校であったため、ほとんどの保護者が前任のときの子供達といううれしい偶然の再会となりました。

2. 子ども達の様子

児童は明るく素直で休み時間になると自然豊かな校舎の回りや体育館で、元気いっぱい遊ぶ姿が見られます。清掃や給食（全校給食）などの係活動は縦割り班で実施し、高学年が低学年にやさしく指導する場面も多く見られます。しかし、低学年が多いためか、じっと座っていらなかったり、人の話を最後まで聞けないなどの課題もあります。

けれども一生懸命取り組み、協力しながら仲良く活動しています。

健康面ではアレルギー体質の児童が多く、入学時点でほとんどの児童にむし菌があり、治療率も低いという実態です。また、保護者が酪農業の家庭が多いため夕食の時間が遅く、寝る時間も遅くなってしまったり、保護者を待っている時間帯に長時間のテレビ視聴やゲームをしているなどの基本的な生活習慣上の課題も多くあります。

3. 主な取り組みを通して

(1) 保健室での対応

保健室に来室した児童が、すっきりした気持ち

で次のステップにいけるような対応と健康に関心を持ってもらえるような工夫をしています。ときには、健康面ではなんの心配もないのですが、なんとなくやってくる低学年の児童には、

「先生は魔法が使えるからね。これから魔法を使って治すからね。」

と怪しい呪文を唱えて見事に魔法の力で元気になってもらうことも多くあります。また、私に話をすることで気持ちの整理ができることもあるので、一人一人の子供達の声をついねいに聞くように心がけています。

(2) 歯の保健指導

① 歯の保健指導授業

毎年6月に1時間、各学年ごとに歯の保健指導をしています。紙芝居、人形劇、パワーポイント、実験、カラーテスターによる染め出しなど、それぞれ学年によって指導内容を設定しています。

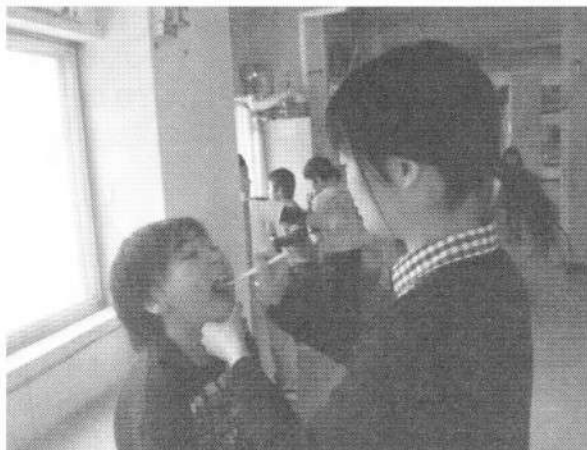
実験では、歯医者さんからいただいた抜歯した歯や卵を酸につけ、歯や卵の殻が溶け出す様子を観察したり、酸でもろくなった歯をカッターで削ったりするなどの実験をしています。



*酸につけて皮が溶けてしまったうずらの卵を触っている様子

② 日常の歯の保健指導

給食後、全校で歯みがきを実施しています。家庭での歯みがきがなかなか定着しない児童もいるため、声かけをするようにしています。特に低学年は自分で歯みがきした後、担任や私でみがき直しをしています。子ども一人一人の乳歯から永久歯への生え替わりの様子を見ながら、要注意乳歯などがあった場合は家庭に連絡するようにしています。



*担任がみがき直しをしている様子

③ 夏・冬休みの歯みがきカレンダー

長期休業の期間については、歯みがきカレンダーを通して歯みがきを継続してできるように指導しています。

④ 保護者への啓蒙

参観日の講話や健康手帳などを通して、日頃の歯みがきについてや歯の治療を呼びかけています。そうすることで保護者から歯に関する相談を受けたりする機会もあります。

(3) 危機管理についての研修会

実際に事故や病気など緊急性を伴うものについての校内研修会を実施しました。

① 研修内容

今年度は、アナフィラキシーショック、ハチに刺されたときの対応、頭部打撲・頭部外傷の対応、ノロウイルスについての研修を危機管理マニュアルに沿って行いました。机上の研修だけでなく、状況を設定して、ロールプレイングを行うことで確認事項や疑問点などについて再確認することができました。

② 危機管理マニュアル

緊急駆けつけセットの中にも入れてあり、とっさのときにすぐ見ながらできるようにしています。

- ・児童かかりつけ医療機関と緊急連絡先一覧
- ・児童の健康状態
(既往症アレルギー等の状態)
- ・事故発生時の救急体制・問診検診のポイント
- ・保護者への連絡事項
- ・救急車到着までの対応
- ・養護教諭不在時の対応

- ・バイタルサインの調べ方
- ・頭部打撲・頭部外傷
- ・ハチに刺されたときの対応
- ・目の外傷の対応
- ・やけどの対応
- ・アレルギー疾患の対応
- ・症状チェックシート

(4) 食育指導

① 栄養教諭による栄養指導

月に一回、栄養教諭に来ていただき、食育指導を行っています。イチゴやふきなど地場産の野菜についての話や、栄養に関する話をしています。時間は給食後の10分間程度を使って実施しています。本校の実態に合う内容や資料について協議をし、子ども達がより興味を持って学習できるようにしています。



*栄養教諭、吉田先生の食育指導
(吉田先生は、2016年全国給食甲子園で優勝されました)

② 日常の指導

食事の楽しさや食習慣などを定着させるため、「大營地小学校の食育目標」を設定しています。まだまだ身についていないことも多くありますが、「ふさわしいきれいな食べ方」ができるように日々のしつけの大切さを実感しています。目標を設定していることで先生方が注意しなくても子ども達同士が意識しながら声を掛け合う場面も多く多く見られます。

③ 保健便りを使って

保健便りの裏面を利用して、子ども達に栄養の大切さや食事のマナーについての特集を組んだりもしています。

④ 保護者への啓蒙

参観日などを利用して、家庭でも食事のマナーの定着ができるような講話を取り入れたりしています。そうすることで、家庭での話題も増えたという、うれしい報告を聞くこともあります。

(5) 掲示物の活用

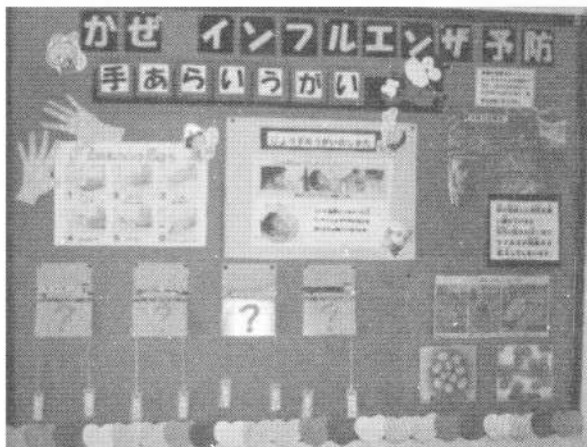
私は、子どもの頃から物を作るのが大好きです。から、得意なことを生かして、子ども達がワクワクする掲示物作りを心がけています。

① 掲示物は子ども達へのメッセージ

子ども達が、見たり、触ったりできる物を取り入れ、

「へえー、そうなんだ。からだってすごいね。」などの反応や、

「これはどういうしくみになっているの。」など、作り方についての質問があります。掲示物を通して会話が弾み、子どもの様子を知ることができます。それぞれ月ごとに「目を大切にしましょう」、「9月9日は救急の日」などのテーマを決めて、健康作りの一環としての掲示物作りに取り組んでいます。



*12月の掲示物 特にひもを引っ張ると問題と答えが出てくるクイズは子ども達に大好評でした。

② 空き時間を使って

忙しいときに掲示物を作るというのはとても負担がかかるため、日頃からちょっとした空き時間を利用してパーツ作りをしています。小さなパーツを作っておくことで完成までの時間にも余裕ができ保管場所にも困りません。

③ ちょっとかわいいものを

私の掲示物へのこだわりの一つが、「ちょっ

とかわいい掲示物」にすることです。かわいいキャラクターをつけたり、テープ、シール、布、発泡スチロールに絵を描いたりなど、いろいろな素材を使って作成しています。

④ 掲示物を通して仲間作り

私にとって楽しい掲示物作りですが、人によっては「すごく苦手」という声を聞くことがよくあります。そんな人に、「簡単にだれでもできる掲示物作り」を教えています。個人的に指導したり研修会などの掲示物作りの担当をさせてもらうことで、掲示物を通して仲間作りができます。教えることは、自分にとっても新たな学びにつながるのだと感じています。



*研修会の様子 (掲示物)

4. おわりに

養護教諭の職務は、「養護をつかさどる」というものですが、その中には多くのことが含まれています。だからこそ、養護教諭自身が主体性を持って前に進めていく必要があると思います。私自身の力は十分でなかったりしますが、周りの先生方や養護教諭の仲間、保護者、関係機関の方々に支えられて、今の自分がいるということを実感しています。

これからも「子ども達が大人になったときに役立つ力」を一つでも多く身につけてもらうために、そして、常に感謝の気持ちを持ちながら仕事を続けていきます。